

2012年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人文科学研究所
研究所・センター長名	小関 素明

I. 研究実績の概要 (公開項目)

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2012年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお本欄は、研究所・センターの総括として使用いただき、プロジェクトごとの詳細な実績報告は、別紙「重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出ください。

1. 研究会活動の概要

人文科学研究所は現在、1. 史料の収集・蓄積を重視した日本近代思想史研究、2. 現在社会を解読するために哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索、3. グローバル化の問題点の検証とそれへの実践的な課題の模索、を共同研究の柱に掲げている。その目標のもとに以下の5つの研究所重点プロジェクト研究、①「近代日本思想史—戦後憲法論議の再検討—」(代表:赤澤史朗)、②「暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)、③「間文化現象学」(代表:谷徹)、④「グローバル化とアジアの観光」(代表:藤巻正己)、⑤「グローバル化と公共性」(代表:松下洸)と、5つの研究助成プロジェクト⑥「大学の自治の制度構想」(代表:中島茂樹)、⑦「戦後沖縄の基地・都市」(代表:加藤政洋)、⑧「人文科学方法論」(代表:筒井淳也)⑨「比較ポピュリズム」(代表:加藤雅俊)、⑩「京都戦後史学史」(代表:田中聡)を設置している。

2. 資料収集・調査活動

これに関しては①が2012年度に公刊した2冊目の資料集に続く3冊目の資料集の公刊に向けて、国立国会図書館や新聞資料ライブラリー、各県立図書館で1960年代の地方新聞所収の憲法関連論説の収集に取り組んだほか、②がオックスフォード大学でのアドルノ関連資料の収集を、④は台湾、タイ(プーケット)、インドネシア(ジャワ)、函館、島原の現地調査を行い、より多様なダークツーリズムの実践例について新たな知見を得た。⑩は「三品彰英関係文書」と立命館大学日本史学専攻研究室所蔵の「夏期日本史公開講座関係資料」の整理を進めた。

3. 学際研究への取り組み

ほとんどの研究会が通常の研究会の開催の中に人的な学際的交流を展開しているが、②が「芸術による人間存在の回復」を主題とした講演会と国際的学術交流、③が米・仏の研究者を招聘して「第5回間文化現象学シンポジウム」、さらにベルギーの研究者を招聘して「ミッシェル・アンリの現象学」関連の講演会、また④が2回の国際セミナー「Foreign Workers in Malaysia and Migration Network between Thailand and Malaysia」(共催:科研費 基盤(C)「グローバル化の進展に伴うマイノリティの新たな生存戦略と越境移住ネットワーク」代表:石井香世子・科研費 基盤(B)「多民族国家マレーシアの外国人労働者に関する学際的総合的研究」代表:藤巻正己)、「中国における観光研究および人文地理学の新展開」(共催:立命館地理学会)、⑤が中国の暨南大学で「People's Mobility in East Asia」と題した国際シンポを開催し充実した意見交換を行ったことが特記される。

4. 研究成果の発信と社会貢献

これについてはほとんどすべての研究会が学内外の学術雑誌への寄稿あるいは国内・国際シンポジウム、公開セミナーの企画・開催に精力的に取り組んでいる。また沖縄市役所担当課の協力を得て、研究対象区域の地図化、また同市役所内での公開シンポジウムの開催など旺盛な実践的活動に取り組んだ⑦のような研究会も存在する。

5. 若手研究者の支援

①～⑩のすべての研究会が博士後期課程の院生を中心とした若手研究者をメンバーに加え、資料収集活動の援助・指導、学術報告や成果執筆の機会の提供や博士論文執筆指導・研究資金の分与などを行っている。さらに若手研究者にワークショップの企画を委ねるなど研究者として自立するに際して必要な経験の機会を与えたプロジェクトも存在する。それらを含めた支援が博士論文完成を促し、その充実を助けたケースも存在する。研究会参加メンバーの若手研究者の幾人かが本学准教授、日本学術振興会特別研究員(PD・DC)、本学プロジェクト研究員(旧学内 PD)に採用されたことは、これら研究会の支援もあざかったものと言えよう。

II. 研究業績 (公開項目)

1) 論文発表

①論文 (査読あり)

雑誌論文

1. 赤澤史朗, 「1950年代の軍人恩給問題 (2・完)」, 『立命館法学』, 341号, pp. 511-552, (2012)
2. 福井純子, 「下からのメディア史」によせて, 『メディア史研究』, 33号, pp. 53-58, (2013)
3. 梶居佳広, 「1950年代改憲論と新聞論説 (1952-1957年): 地方紙を中心に (1) (2・完)」, 『立命館法学』, 第343号, pp. 464-508, (2012)
4. 梶居佳広, 「1950年代改憲論と新聞論説 (1952-1957年): 地方紙を中心に (2) (2・完)」, 『立命館法学』, 第344号, pp. 464-508, (2012)
5. 梶居佳広, 「東京裁判における日本の東南アジア占領問題: 検察側立証を中心に」, 『立命館法学』, 第345・346号, pp. 211-252, (2013)
6. 穎原善徳, 「帝国憲法改正案」成立の論理と条件, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 100号, pp. 43-73, (2013)
7. 林尚之, 「戦後改憲論と「憲法革命」」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 100号, pp. 75-103, (2013)
8. 林尚之, 「昭和初期の思想司法の展開と帰結」, 『人文学の正午』, 3号, pp.85-105, (2012)
9. 林尚之, 「憲法「全面改正」運動と戦後政治の形成」, 『日本史研究』, 607号, pp. 94-111, (2013)
10. 城下賢一, 「治山治水特別会計をめぐる政治過程」, 『土木史研究講演集』, 32号, pp. 167-170, (2012)
11. 佐藤太久磨, 「大東亜国際法 (学) の構想力—その思想史的位置—」, 『ヒストリア』, 233号, pp. 49-78, (2012)
12. 佐藤太久磨, 「「世界共同体」の論理、二つの文脈—明治政治思想の一断面—」, 『次世代人文社会研究』, 9号, pp. 115-131, (2012)
13. 吉田武弘, 「良識の府」参議院の歴史的的位置—職分論の転回から」, 『日本近代学会』, 39号, pp. 215-233, (2013)
14. 吉田武弘, 「大正期における床次竹二郎の政治思想と行動」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 100号, pp. 7-42, (2013)
15. 猪原透, 「認識論と実証研究を架橋する—言語論的転回以後の歴史学と「理解の方法」—」, 『新しい歴史学のために』, 280号, 京都民科歴史部会, pp. 63-76, (2012)
16. 黒岡佳祐, 「リングスによるレヴィナス—共同体の問題を巡って」, 『立命館哲学』, 第24集, 立命館大学哲学会, pp. 29-54, (2012)
17. 黒岡佳祐, 「本来性、その教育的性格—ハイデガーとプラトン—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 立命館大学人文科学研究所, 第101号, pp. 111-143, (2013)
18. 青柳雅文, 「危機の中の安穩 危機を語るということ」, 『文明と哲学』, 日独文化研究所・こぶし書房, 4号, pp. 154-168, (2012)
19. 田邊正俊, 「文化をめぐるニーチェ—ニーチェの文化的パースペクティブについての一考察—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 立命館大学人文科学研究所, 第101号, pp. 145-170, (2013)
20. Akira Akabayashi and Yoshinori Hayashi, "Mandatory Evacuation of Residents during the Fukushima Nuclear Disaster: An Ethical Analysis", *Journal of Public Health* 34(3), pp. 348-351, (2012)
21. Akira Akabayashi, Yoshiyuki Takimoto and Yoshinori Hayashi, "Physician Obligation to Provide Care during Disasters: Should Physicians Have Been Required to Go to Fukushima?", *Journal of Medical Ethics* 38(11), pp. 697-698, (2012)
22. 雨森直也, 「新たな「地域文化資源」の創造とエスニック・アイデンティティの強化—中国雲南省鶴慶県におけるペー族の観光化村落を事例として—」, 『アジア経済』, JETRO アジア経済研究所, 53巻6号, pp. 72-95, (2012)
23. Yukio Yotsumoto, "Formalization of Urban Poor Vendors and Their Contribution to Tourism Development in Manila, Philippines", *International Journal of Japanese Sociology*, Wiley-Blackwell, Vol.22, pp.1-15 (2012)
24. Yukio Yotsumoto, "Ecotour Providers in the Kyushu Region: The Characteristics of Japanese Ecotourism and Its Relationship with Global Warming", *Contemporary Japan*, Walter de Gruyter, Vol. 24, pp. 243-265 (2012)

25. 松下冽, 「市民社会と民主主義を蝕む越境型暴力——岐路に立つメキシコのガバナンス構築の視点から——」, 『立命館国際研究』, 24 巻 3 号, pp. 15-49, (2013)
26. 田中宏, 「欧州統合の到達点と経済危機の構図」, 『経済』, 202 号, pp. 119-136, (2012)
27. 田中宏, 「シェアとシェアされた所有に関する社会経済学的考察」, 『立命館経済学』, 61 巻 5 号, pp. 56-76, (2012)、
28. 田中宏, 「「影の労働システム」はどのように作動したのか—「ソ連型」経済社会のめぐる甲論乙駁—」, 『松山大学論集』, 第 24 号第 4-3 号, pp. 167-188, (2012)
29. 中谷義和, 「国家権力への視座」, 『立命館法学』, 343 号, pp. 400-463, (2012)
30. 中谷義和, 「国民国家への視座」, 『立命館法学』, 345・346 号, pp. 475-544, (2013)
31. 加藤雅俊, 「福祉国家再編分析におけるアイデア・利益・制度（3・完）—制度変化の政治学的分析に向けて—」, 『北大法学論集』, 63 巻 1 号, pp. 47-102, (2012)
32. 篠田武司, 「新たなスウェーデン・モデルの形成」, 『季刊経済理論』 経済理論学会編, 第 49 巻第 4 号, pp. 22-31, (2013)

図書

1. 吉田武弘, 『西園寺公望関係文書』(編著), 西園寺公望関係文書研究会(編集), 松香堂書店, 232p, (2012)
2. 林尚之, 『主権不在の帝国』(単著), 有志舎, 274p, (2012)
【グローバル化とアジア】
3. 石井香世子「社会資本としての国籍とジェンダー：タイ『山地民』女性のグローバル移動から」, 陳天璽・近藤敦・小森宏美・佐々木てる編著『越境とアイデンティフィケーション：国籍・パスポート・IDカード』, 新曜社, pp. 320-338 (2012)
4. 大野哲也, 『旅を生きる人びと—バックパッカーの人類学』(単著), 世界思想社, 265p, (2012)
5. Kayoko Ishii, "Mixed-ethnic Children Raised by Single Thai Mothers in Japan: A Choice of Ethnic Identity", LAI Ah Eng, Francis Leo COLLINS & Brenda YEOH eds, *Migration and Diversity in Asian Contexts*, ISEAS Publications, pp.163-181, (2012)
6. 松下冽, 『グローバル・サウスにおける重層的ガバナンス構築——参加・民主主義・社会運動——』(単著), ミネルヴァ書房, 342p, (2012)
7. 松下冽, 『新自由主義に揺れるグローバル・サウス——いま世界をどう見るか——』(共編著), ミネルヴァ書房, 382p, (2012)

②論文(査読なし)

雑誌論文

1. 赤澤史朗, 「靖国神社における戦没者の合祀基準の形成—明治期に関して—」, 國學院大學研究開発支援センター編『招魂と慰霊の系譜—「靖国」の思想を問う—』, 錦正社, (2013)
2. 中島茂樹, 「新自由主義的国家再編と地方教育行政」, (日本科学者会議第 19 回総合学術研究集会予稿集)『持続可能な社会への変革をともに』, 日本科学者会議, pp. 158-159, (2012)
3. 加國尚志, 「神々の骰子—シェリングと自然の根源偶然」, 『シェリング年報 12』, 第 20 号, 日本シェリング協会, pp. 42-50, (2012)
4. 谷徹, 「トラウマと再生」, 『文明と哲学』, 日独文化研究所・こぶし書房, 4 号, pp. 57-73, (2012)
5. 谷徹, 「あたわざる死」, 『文明と哲学』, 日独文化研究所・こぶし書房, 4 号, pp. 108-125, (2012)
6. 谷徹, 「つまらない・話」, 『文明と哲学』, 日独文化研究所・こぶし書房, 4 号, pp. 184-197, (2012)
7. Toru Tani, "Trauma, Civilization, Reproduction", *Investigaciones Fenomenológicas*, Sociedad Española de Fenomenología, n.9, pp. 289-306, (2012)
8. 筒井淳也, 「東アジア福祉モデルとその問題—労働市場と結婚の二重のミスマッチの理論—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 99 号, pp. 117-132, (2013)
9. 小澤亘, 「日本・韓国・カナダ 3 カ国における青年ボランティア文化比較研究—市民社会とボランティア問題—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 99 号, pp. 183-212, (2013)

10. Kiyokatsu Nishiguchi, "The Noda Cabinet's Announcement for Participating in the TPP Negotiations and Japan's Future Course: An Observation from Studies of the U.S.'s New Asia-Pacific Strategy and the ASEAN's New Proposal of RCEP (Regional Comprehensive Economic Partnership)", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*.Vol.5, pp.25-40, (2013)
11. Junya Tsutsui, "East Asian Welfare Model and Its Discontents: A Theory of Twin Mismatches in Labor and the Marriage Market", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*.Vol.5, pp.99-111, (2013)
12. Kinhide Mushakoji, "Identity Politics in the Developmentalist States of East Asia: The Role of Diaspora Communities in the Growth of Civil Societies", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*.Vol.5, pp.113-123, (2013)
13. Wataru Ozawa, "Comparative Study on Volunteerism of Youth in Japan, Korea and Canada: Civil Society and Volunteer Problems", *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*.Vol.5, pp.125-143, (2013)
14. 加藤政洋, 「戦後沖縄における基地周辺の「歓楽街」—《泉町》と《辻新町》の成立をめぐる—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 第101号, pp. 1-26, (2013)
15. 加藤政洋, 「米軍統治下における奄美-沖縄間の人口移動」, 『立命館地理学』, 第24号, pp. 1-17, (2012)
16. 櫻澤誠, 「1950年代沖縄における「基地経済」と「自立経済」の相剋」, 『年報日本現代史』, 第17号, pp. 143-177, (2012)
17. 櫻澤誠, 「沖縄の復帰過程と「自立」への模索」, 『日本史研究』, 第606号, pp. 126-150, (2013)
18. 筒井淳也, 「マルチレベル分析を有効活用するには」, 『社会と調査』, 9号, (2012)
19. Masatoshi kato, "Welfare State Transformations and Immigration in Japan and Australia: A Comparative Perspective", Conference Proceedings of International Symposium on "People's Mobility in East Asia", pp.223-253, (2013)
20. 加藤雅俊, 「比較福祉国家論における言説政治の位置—政治学的分析の視角—」, 宮本太郎(編), 『福祉+α 福祉政治』, ミネルヴァ書房, pp. 133-150, (2012)
21. 高橋進, 「ポピュリズムの多重奏—ポピュリズムの天国: イタリア—」, 高橋進・石田徹(編) 『ポピュリズム時代のデモクラシー』, 法律文化社, pp. 165-189, (2013)

図書

1. 吉田武弘, 『西園寺公望関係文書』(編著), 西園寺公望関係文書研究会(編集), 松香堂書店, 232p, (2012)
2. 林尚之, 『主権不在の帝国』(単著), 有志舎, 274p, (2012)
3. 中島茂樹, 「新自由主義教育改革と学校管理——職員会議での挙手・採決禁止訴訟東京地裁判決を素材として」, (室井力先生追悼論文集) 『行政法の原理と展開』, 法律文化社, pp. 360-382, (2012)
4. Takashi Kakuni, From The Things Themselves, Architecture and Phenomenology, Edited by Benoît Jacquet and Vincent Giraud, Kyoto University Press, École française d'Extrême-Orient., (2012)
5. 加藤雅俊, 「比較福祉国家論における言説政治の位置—政治学的分析の視角—」, 宮本太郎(編) 『福祉+α 福祉政治』, ミネルヴァ書房, pp. 133-150 (第七章), (2012)
6. 文京洙, 「戦後日韓関係と市民社会の課題」, 松下冽・藤田和子編 『新自由主義に揺れるグローバル・サウス』, ミネルヴァ書房, pp. 352-368, (2012)

2) 学会発表

① 海外での発表

1. Takashi Kakuni, La chair du monde - une petite considération sur la relation entre deux écrivains, Merleau-Ponty et Claude Simon, Colloque Internationale des Archives Husserl, La philosophie l'épreuve de l'écriture, École Normale Supérieure de l'Ulm, Paris, France, 5 May 2012
2. Daisuke Kamei, "The Rift of Eschatology in Teleology"—on Derrida's Thinking of History", Derrida Today, Derrida Today 3rd Conference, University of California-Irvine, USA, 12 July 2012
3. Takuji Kobayashi, "Tomoo Otaka's Phenomenological State Theory before and during World War II", Social Reality

— The Phenomenological Approach, Universität Wien, Austria, 22 March 2013

4. Yoshinori Hayashi and Akira Akabayashi, "Adoption for Donation: Toward the Reconceptualization of Family in Living Donor Transplantation in Japan", Family-Oriented Informed Consent: East Asian & American Perspectives on a Cultural Moral Practice, City University of Hong Kong, 13 December 2012
5. 藤巻正己, 「「旅游性社会」日本の新旅游現象—动画圣地巡礼・自愿者旅游・灾区旅游—」(「ツーリスティックな社会」日本における新しい観光現象—アニメ圣地巡礼・ボランティアツーリズム・被災地観光—), 中・日城市旅游経済国際研究会, 上海市・上海師範大学旅游学院・会議センター, 2013年3月28日
6. Kayoko Ishii, 「Border Preferred People : Ethnic Minorities Migrating from Northern Thai Border to Southern Thai Border」, International Symposium on Culture and Society in Southeast Asia, School of Social Science, University Malaysia Sabah, Kotakinabalu, Malaysia, 13 February 2013
7. Masatoshi kato, 「Welfare States Transformations and Immigrations in Japan and Australia: A Comparative Perspective」, International Symposium on "People's Mobility in East Asia", Jinnan University (China) , March 2013
8. Kiyokatsu Nishiguchi, An East Asian Community or an APEC Community: Regional Cooperation in Asia-Pacific and the Course Japan Should Take", The 7th International Conference on the Regional Innovation and Cooperation in East Asia (RICA 2012), Pusan National University, 23 November 2012.

②国内での発表

1. 小関素明, 「明治維新と近代公権力」, 史創研究会第3回大会, 京都府立大学, 2012年12月9日
2. 福井純子, 「下からのメディア史によせて」, メディア史研究会20周年記念シンポジウム「下からのメディア史」の試み—メディア史研究の読者・視聴者研究の方法—, 立教大学池袋キャンパス11号館, 2012年9月8日
3. 梶居佳広, 「「憲法問題」に対する新聞論説の変遷について(1952—1964年)—地方紙を中心に—」, 近代日本思想史研究会、立命館大学衣笠キャンパス, 2012年9月7日
4. 林尚之, 「憲法「全面改正」運動と戦後政治の形成」, 2012年度日本史研究会大会個別報告, 立命館大学衣笠キャンパス, 2012年10月13日
5. 城下賢一, 「治山治水特別会計をめぐる政治過程」, 土木学会土木史研究会2012年大会, 日本大学, 2012年6月16日
6. 佐藤太久磨, 「世界国家の論理、二つの文脈—「宇内無上政法」と「宇内統一国」—」, 日韓次世代学術フォーラム第9回大会, 一橋大学, 2012年6月27日
7. 佐藤太久磨, 「原子力時代における二つの憧憬—主権と世界政府をめぐる—」, シンポジウム「原子力と現代の人文科学」, 京都大学吉田キャンパス, 2012年10月27日
8. 佐藤太久磨, シンポジウム「原子力開発および原子力「安全神話」の形成と戦後政治の総合的研究」, 京都大学, 2012年9月15日
9. 佐藤太久磨, 「《自主憲法》の精神、その起源—デモクラシーと主権平等への欲望—」, 韓国日本近代学会第26回国際学術大会, 立命館大学, 2012年11月10日
10. 佐藤太久磨, 「《革命》としての近代—日本史の場合—」, 史創研究会第3回大会, 京都府立大学, 2012年12月9日
11. 佐藤太久磨, 「「近代」省察のための方法論的試論」, 「人文科学の正午」研究会, 京都府立大学, 2013年3月2日
12. Toru Tani, "Die Phänomenologisierung der Kultur", Philosophische Konzeptionen von Raum und Selbst – Ein deutsch-japanisches Symposium, 関西学院大学, 2013年3月23日
13. 亀井大輔, 「デリダの自己触発論の射程—ハイデガー、アンリとの対比をつうじて」, 日本ミシェル・アンリ哲学会, 日本ミシェル・アンリ哲学会第四回研究大会, 学習院大学, 2012年6月9日
14. 青柳雅文, 「社会の間文化的ダイナミズム—生成と破壊、遭遇と排除」, 日本現象学・社会科学会, 第29回大会シンポジウム2「社会性への間文化現象学的アプローチ」, 神戸大学, 2012年12月2日
15. Yuichi Sato, "The Way of the Reduction via Anthropology — Husserl and Lévy-Bruhl, Merleau-Ponty and Lévi-Strauss —", 第5回間文化現象学シンポジウム, 立命館大学, 2013年3月13日

16. 小林琢白, 「尾高朝雄の社会団体論と超越論現象学会」, 日本現象学会, 日本現象学会第 34 回研究大会, 東北大学, 2012 年 11 月 17 日
17. 小林琢白, 「社会団体の「構成」——間文化現象学の視点から」, 日本現象学・社会科学会, 第 29 回大会 シンポジウム 2 「社会性への間文化現象学的アプローチ」, 神戸大学, 2012 年 12 月 2 日
18. 林芳紀, 「感染症の倫理的問題—予防接種」, 京都生命倫理研究会, 京都女子大学, 2012 年 9 月 22 日
19. 林芳紀, 「佐藤氏へのささやかな質問」, 京都生命倫理研究会, 京都大学, 2013 年 3 月 16 日
20. 大野哲也, 「バックパッキングと社会 メディアがつくる旅の面白さとその帰結」, 人文地理学会第 275 回例会, 奈良女子大学, 2012 年 4 月 21 日
21. 大野哲也, 「「危険」を消費する—アジアを旅する日本人バックパッカーの経験から—」, 日本文化人類学会, 文化人類学会第 46 回研究大会, 広島大学, 2012 年 6 月 24 日
22. 藤巻正己, 「ツーリズムスケープ—観光現象のメタ景観論的解釈—」, 観光学術学会, 第 1 回大会 (2012 年), 和歌山市・和歌山大学, 2012 年 7 月 7 日
23. 村瀬智, 「みやこと災害の文明論 (インド)」, 比較文明学会第 30 回学術大会, 京都大学稲盛財団記念館, 2012 年 11 月 17 日
24. 四本幸夫, 「変化するフィリピンの農村: フィリピンの観光地化を目指すイフガオ族のナガカダン村を事例として」, 日本文化人類学会, 日本文化人類学会第 46 回研究大会, 広島大学, 2012 年 6 月 24 日
25. 四本幸夫ほか, 「観光地確立初期における商店の形成 - ベトナム北部サパ地区ラオチャイ村を事例として - 」, 日本社会学会, 第 85 回日本社会学会大会, 札幌学院大学, 2012 年 11 月 3・4 日
26. Kayoko Ishii, 「Networks of Migrant Minorities Scattered Among Thailand, Malaysia, and Other Countries: Research Scope and Plan」 Joint Workshop: Foreign Workers in Malaysia and Migration Network between Thailand and Malaysia, 立命館大学, 2012 年 7 月 29 日
27. Kayoko Ishii, 「Trans-border Life of the Ethnic Minority People」, 日本社会学会, 第 85 回日本社会学会大会, 札幌学院大学, 2012 年 11 月 3 日
28. 薬師寺浩之, 「観光客の『批判されうる行為』に関する社会心理学的論考」, 観光学術学会, 観光学術学会第一回全国大会, 和歌山市・和歌山大学, 2012 年 7 月 8 日
29. 薬師寺浩之, 「責任ある観光行動の重要性を啓蒙する活動に関する基礎的研究」, 日本観光研究学会, 第 27 回日本観光研究学会全国大会, 宮城県黒川郡大和町・宮城大学, 2012 年 12 月 2 日
30. 田中宏, 「中国「国家社会主義」論をめぐる——大西広報告と井手啓二報告へのコメント」, 東アジア地域研究会 2012 年全国大会, 京都, 2012 年 12 月 1 日
31. 田中宏, 「体制転換期の制度と行動変動の研究に進化の視点はどこまで有効か」, 第 17 回進化経済学会, 中央大学, 2013 年 3 月 16 日
32. 田中宏, 「EU のマクロ地域戦略—ドナウ流域のケース」, 第 17 回進化経済学会, 中央大学, 2013 年 3 月 17 日
33. 加藤雅俊, 「福祉国家再編の日豪比較・序説—雇用保障重視モデルからの転換と分岐—」, 社会政治研究会, 名古屋大学, 2012 年 5 月 11 日
34. 加藤雅俊, 「グローバル時代の福祉国家再編—その政治学的分析の可能性—」, グローバル公共性研究会, 立命館大学, 2012 年 7 月 31 日
35. 山根健至, 「フィリピンにおける『参加型治安部門改革』の試み: 安全保障分野の民主化と市民社会の役割」, 日本平和学会 2012 年度秋季研究集会, 三重県総合文化センター, 2012 年 11 月 23 日
36. 加藤政洋, 「ビジネスセンター計画の構想と理念」, 研究会主催公開シンポジウム「コザ『ビジネスセンター』計画・再考」, 沖縄市役所, 2013 年 1 月 19 日
37. 河角龍典, 「ビジネスセンターの都市計画とランドマーク」, 研究会主催公開シンポジウム「コザ『ビジネスセンター』計画・再考」, 沖縄市役所, 2013 年 1 月 19 日
38. 櫻澤誠, 「沖縄の復帰過程と「自立」への模索」, 日本史研究会大会, 立命館大学, 2012 年 10 月 14 日
39. 櫻澤誠, 「琉球政府立法院による民主政治の射程—石川事件対策特別委員会を事例として—」, 沖縄国際大学沖縄法政研究所シンポジウム, 沖縄国際大学, 2012 年 11 月 17 日

40. 加藤政洋・河角龍典, 「米軍統治下の沖縄における都市計画(1) — 越来村「ビジネスセンター」構想の表と裏 —」, 2012年人文地理学会大会, 立命館大学, 2012年11月18日
41. 河角龍典・加藤政洋, 「米軍統治下の沖縄における都市計画(2) — 越来村「ビジネスセンター」の地形景観の復原 —」, 2012年人文地理学会大会, 立命館大学, 2012年11月18日

3) 省庁、学会、財団などの表彰

なし

4) 外部資金獲得(競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等)

1. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012~14年度, 「1960年代の憲法論議—地方紙を中心として」, 赤澤史朗(代表), 5,330千円
2. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究(B), 2011~13年度, 「朝鮮戦争と日本の新聞論説に関する研究」, 梶居佳広(代表), 3,510千円
3. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究(B), 2011~13年度, 「戦後日本政党政治における社会民主主義の位置—民社党の挑戦1960~1971—」, 城下賢一(代表), 3510千円
4. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2010~12年度, 「メルロ＝ポンティ存在論における文学の位置づけ」, 加國尚志(代表), 780千円
5. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(B), 2008~12年度, 「多極化する現象学の新世代組織形成と連動した「間文化現象学」の研究」, 谷徹(代表), 18,720千円
6. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(B) (海外学術調査), 2012~14年度, 「多民族国家マレーシアの外国人労働者に関する学際的総合的研究」, 藤巻正己(代表), 6,370千円
7. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究(B), 2009~12年度, 「レジーム間相互作用促進アクターの研究」, 足立研幾(代表), 2,990千円
8. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012~15年度, 「暴力に抗するラテンアメリカ社会:リージョナル・ガヴァナンス構築の視点から」, 松下列(代表), 5,070千円
9. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012~14年度, 「スウェーデンにおける労働市場への参加を通じた移民の社会統合に関する研究」, 篠田武司(代表), 2,600千円
10. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究(B), 2011~13年度, 「雇用保障重視型の福祉国家再編の比較分析—「言説の政治」からみた日豪比較—」, 加藤雅俊(代表), 2,340千円
11. 競争的資金 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012~14年度, 「公的雇用と女性労働の関連性についての国際比較研究」, 筒井淳也(代表), 3,250千円
12. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究(B), 2011~13年度, 「米軍統治下の沖縄における奄美諸島出身者の社会地理」, 加藤政洋(代表), 2,210千円
13. 競争的資金 科学研究費補助金 若手研究(B), 2011~14年度, 「国民的歴史学運動の京都地域における定着と社会的影響に関する研究」, 田中聡(代表), 5,070千円
14. 受託研究 公益財団法人大学コンソーシアム京都 2012年度「未来の京都創造研究事業」, 「二条駅周辺の再開発とまちづくり~『立地創造』の視点から~」, 加藤政洋, 500千円

5) 特許

①出願

なし

②取得

なし

6) その他(報道発表、講演会等)

①報道発表

なし

②講演会

1. 加國尚志, 「立命館と自然の哲学」, 2012 年度立命館大阪プロムナードセミナー『哲学・思想の宇宙をめぐる一大阪・京都の思索の系譜』, 立命館大阪オフィス, 2012 年 6 月 5 日
2. 亀井大輔, 「楢田の思考」, 人文科学研究所研究プロジェクト「暴力からの人間存在の回復」ジゼル・ベルクマン講演会「ジャック・デリダ/ジャン＝リュック・ナンシー 脱構築は単数か、複数か」, 立命館大学, 2012 年 7 月 27 日
3. 山根健至, 「アキノ政権下の治安部門改革における国家－市民社会関係」, 第 17 回フィリピン研究会全国フォーラム, 京都大学稲盛財団記念館, 2012 年 7 月 15 日
4. 加藤政洋, 「戦後那覇における料亭の立地展開」, 那覇市若狭公民館市民講座『那覇の歴史を知る』, 2012 年 11 月 9 日

③その他

1. 赤澤史朗, 「書評: 山本悠三著『近代日本の思想善導と国民統合』」, 『歴史評論』, pp. 754, (2013)
2. 亀井大輔, 「書評: 松葉祥一『哲学的なもの政治的なもの——開かれた現象学のために』 共同体のアポリアを考えるために」, 『倫理学研究』, 関西倫理学会編, 第 42 号, pp. 176-180, (2012)
《翻訳》
3. ジゼル・ベルクマン著, 亀井大輔・松田智裕訳, 「思考することを彼は何と呼ぶか? ——ジャン＝リュック・ナンシーと脱構築」, 『人文学報』, 首都大学東京人文科学研究科, 第 481 号, pp. 49-65, (2013)
4. ギルバート・ライル著, 青柳雅文訳, 「現象学」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 第 101 号, pp. 193-213, (2013)
5. 尾高朝雄著, 小林琢自訳, 「純粋法学の将来の課題」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 第 101 号, pp. 171-191, (2013)
6. Bob Jessop 著, 中谷義和訳, 「リージョナリズムとグローバリズムの力学—批判的政治経済学のパースペクティブ—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 99 号, pp. 3-32, (2013)
7. Baogang He 著, 中谷義和訳「オーストラリアのアジア対応の諸困難—リージョナリズムの理念のジレンマ—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 99 号, pp. 57-89, (2013)
8. 武者小路公秀著, 中谷義和訳「東アジア開発主義諸国家におけるアイデンティティ政治—市民社会の形成における移住者コミュニティの役割—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』, 99 号, pp. 133-147, (2013)

以上